

2028 ロサンゼルス大会に向けた基本的な考え方

2025 年 2 月 12 日発表の「2024 パリ大会後の国際競技力向上に向けて 強化活動に係る総括」を受け、現在の国際競技力や資源、課題を踏まえ、「身の丈」を考慮した強化活動とするための『選択と集中』を図り、実効性の高い活動の推進を目指し「強化戦略計画」を発表しております。

パリ大会までの事業の取り組みを継承しつつ、原則、本計画にて方向づいた内容に沿って、「2028 ロス大会」に向けた強化委員会の基本的な考え方について以下のとおりお知らせいたします。

また、2028 年 LA 大会よりコースタル種別もオリンピック種目に追加となることからコースタル種別についても一部記載しておりますが、詳細はコースタル委員会から発表を予定しております。

1. 基本的な考え方

- (1) 『強化戦略計画』の方向性と連動し強化施策の実行を検討する。
- (2) 9 年間取り組んできた強化メソッドの考え方を継続し日本チームに落とし込むべき改善を加える。
ジュニアからシニアトップ選手まで成長し続けるフィジカル、そしてテクニック・メンタルの強化を深化させ、世界レベルにチャレンジするため、小艇のレベルを更に引き上げる。
また、クルーボートについては「ナショナルチームの考え方」を整理し、新たに派遣種目制度の制定をおこない『継続した挑戦』と『経験値獲得』を切らすことのないよう所属団体と一体となった取り組みを実施する。
- (3) 重点強化種目の強化に注力し、派遣種目の派遣も継続する中オープンカテゴリー強化基盤をこれからの 3 年で形成する。
- (4) コースタル競技における CMPA 制度の更なる強化体制の構築および高品質な強化活動にむけて関係委員会と調整を図り、2032 年ブリスベン大会でのメダル獲得という目標達成の基盤形成を行う。
- (5) 選手所属団体とのミーティングの実施、派遣種目においての所属団体からのコーチングスタッフ等の帯同による強化合宿や海外遠征帯同を推進・実現し、強化メソッドの確実な浸透及び強化基盤の確立を図る。
- (6) 新強化体制構築を図り計画的な事業の推進ならびに評価、改善を図る。

2. 目標および重点強化種目、派遣種目

(1) 目標

(重点強化種目)

【クラシック】

2028 ロス大会の出場枠を 2 枠獲得し、五輪本大会での最高位を目指す。

【コースタル】

2028 ロス大会でベスト8(入賞)を目指す。

※強化戦略計画、コースタル中長期計画より引用

(重点強化種目外)

【クラシック】

・2032 年ブリスベン大会に繋がる派遣種目を設定し 2028 年ロス大会での 1 種目以上の出場権獲得を目指す。

(アジア競技大会)

・2028 ロス大会のマイルストーンと位置づけ出場全種目の入賞、前回大会を上回るメダル獲得を

目指す。

(2)重点強化種目

【クラシック】

男女シングルスカル

【コースタル】

男女ソロ

※なお、CMix2x 種目は男女ソロの補漕機能も保有しているため CMPA 制度にて強化事業を継続する。

(3) 派遣種目

【クラシック】

男女ダブルスカル、男女フォア

但し、SBS の評価内容によって一部変更する場合がある。

2028 ロス大会以降を見据えた更なるオープンカテゴリーの強化基盤整備も推進も目指す。

【コースタル】

CMPA 派遣対象以外の大会での自費派遣での派遣対象を明確化し選考・派遣を継続する。

3. 主要な強化戦略

(1) 現行トレーニング・プログラムを改善し継続推進によるフィジカルレベルの一層の向上

・フィジカルおよびローイングレベルで世界と戦える選手の基準を明確にし、重点強化種目、派遣種目選考にも一部フィジカルの基準を反映する。

(例示:世界と戦えるレベルのエルゴ基準 %IDT/ 95%以上、水上パフォーマンス 2024 年平均 +2-3%要)

また、フィジカルについてはオープンカテゴリーを戦うためには最低エルゴメーターでの%IDT95%ラインが必要であり、重点強化種目における SBS 参加権について 2026 年シーズンに向けては 94%程度を設定する。

なお、本設定は最終的に日本チームがローイング強国に成長するためにも 4 年スパンで見直しを図り最終 95-96%レベルでの設定を検討する。

・世代別(シニア/U23/ジュニア)に所定の基準を満たす選手母集団(プール)を拡充し、フォローアップと継続強化を推進する。

・フィジカルレベルの向上を図るために関係機関ならびに医科学委員会との連携を図り、コンディショニングの管理・徹底、関係委員会とも連携し情報科学・分析を充実させる。

(2) 2028 ロス大会に向けた選択と集中、オープンカテゴリーの強化基盤の整備

・重点強化種目を男女シングルスカルとし、強化の資源を集中的に支援する。

・Small Boat Selection については毎年 3 月に継続実施し、重点強化種目の選考を行うと同時に 2028 年ロス大会、2032 年ブリスベン大会に向けた可能性を高めるためにも派遣種目の選考を行うためにペアの選考も実施する。

特に、派遣種目については SBS のランキングや%IDT をもとに派遣種目の選定に活用する。

クルーの評価・選考について改善を行いローイングにおける強い「個」を選抜し、強固なクルー醸成にむけ評価機会の在り方について改善を図る。

2026 年度以降はアジアローイング選手権大会やアジアカップなどは国内大会優勝者を派遣するスキームも検討し、国内での競技力向上や所属団体の経験値向上に繋げる。

・ナショナルチームを A 代表・B 代表・C 代表に分け、それぞれの強化目標実現に合わせ、海外派遣基準を設定しチームボート強化(母集団の拡充)へ繋げる。

なお、B・C 代表の派遣については従来通り各所属団体の費用負担とする。

*A 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・・・重点強化種目の強化 オリンピック、アジア競技大会、世界ローイング選手権 (WRBSF 含む)、ワールドカップ など
B 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・・・派遣種目 (世界ローイング選手権) アジア競技大会、ワールドカップ など ※なお、ワールドカップにて世界ローイング選手権派遣レベルが確認された場合は重点強化種目と同等に扱い、以降の強化活動への参加を行う。指導者・費用負担は都度調整とする。
C 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・・・派遣種目 (アジア選手権、インターナショナルレガッタ) 主にアジア選手権

・海外遠征派遣については明確な基準を発表する。

なお、気象条件にも影響する要素があるため最終的には当日のコースコンディションなども鑑み判断する。

SBS→評価レース	%IDT	92% (2022-2024 年の PA レベル相当)
評価レース→世界ローイング選手権	%IDT	94% (2024 年・2025 年のオリンピッククオリファイレベル▲1-1.5%)

- ・世界のハイレベルレースへの挑戦、またアジアにおけるプレゼンスの維持・向上を実践するため、いずれも海外レース経験の蓄積を図る。
- ・ポテンシャルのあるオープン選手の強化継続システムである MPA 制度の改善を図る。
また、協会内の制度一本化も目指す。
- ・2026 年アジア競技大会を 2028 ロス大会のマイルストーンと位置づけ可能性を広げ、ローイング界一体となった取り組みを目指す。また、本取り組みをオープンカテゴリーのシフトへの基盤形成に繋げる。また、2032 年ブリスベン大会に向けては 2027 年よりターゲットとなる選手、種目を対象としたプロジェクトを展開する。
また、国内開催によるメリットを生かして軽量級種目への派遣を実施する。
- ・海外強化拠点については新ヘッドコーチの示す方針も参考と成しながら新たな整備、活用を目指す。
- ・強化拠点「海の森水上競技場」の活用および機能強化については気象条件、アスリートの声、コスト面も踏まえて積極的な活用を目指す。

(3) タレント発掘・育成・強化までの長期パスウェイの実効性あるシステムの改善

- ・J-STAR プロジェクト、JOC エリートアカデミー事業、U23・U19 トールタレントプログラムを通じた有望アスリートの発掘の継続と運営体制の改善を図る。特に種目最適化型タレント発掘・育成事業の推進を目指す。
- ・ナショナルチームが示すトレーニング・プログラムをシームレスに 10 年継続実施できる環境を整備する。
- ・U19⇒U23⇒シニアカテゴリーまで切れ目のない強化、育成活動を継続し、アスリートの漸次成長の支援体制を構築しアスリート育成パスウェイを再構築する。
- ・日本版 FTEM の考え方をういて『ローイング版アスリート育成パスウェイ』を確立し、関係者への浸透を図る。
- ・上記施策実現に向けての体制も検討する。

(4) 所属チームとの連携強化、WIN-WIN となる関係の構築

- ・強化活動 (国内合宿や海外遠征) におけるサポートコーチの派遣等、連携を深化させる。
- ・各所属チーム等のサポートコーチが強化活動に直接携わることにより国際レースでの経験知見を

- 広め、強化目標実現に向け各所属チームと一体となったナショナルチームを構築する。
- ・ナショナルチームを支える次世代指導者の育成を図る。
 - ・パリ大会までに確立できているシニアカテゴリーの所属団体との連携を進化し、さらにダイレクトかつ環境変化に柔軟に対応すべく体制構築を目指す。また、U23 カテゴリーの更なる強化に向けて大学連盟などとの連携強化を図る。
 - ・派遣種目の強化、派遣について所属団体と強化委員会が連携し仕組みの構造を目指す。

(5) PDCA サイクルの定着による漸次成長と計画的・安定的な強化活動の推進

- ・毎年、合理的な目標設定と成果を確認することにより、選手=コーチ陣=強化マネジメントチームが三位一体となり着実な進歩を図る。
また、その実現に向けてリソースの充実と人材の適材適所への配置を検討し、新体制を構築する。
- ・選手およびナショナルチームの成長について、見える化を推進する。

以 上